

生物多様性地域戦略改定に伴う 意見募集の結果概要

資料 1

■ 団体[※] 31件（団体名公表29件、団体名非公表2件）

※団体枠の「教育・研究機関」には、大学教授など学識経験者の意見も含まれています。

■ 個人 88件（将来像：82件、戦略1：69件、戦略2：65件、戦略3：77件）

■ 合計 119件

【注意点】

○本資料は各主体による自らの将来像や取組のほか、各主体が他の主体に対する御意見も含めて掲載しています。

○全ての御意見を掲載できないため、本資料ではいただいた御意見を抜粋し掲載しています。また、複数意見を簡潔にまとめる関係上、一部表現を修正している箇所があります。

○いただいた御意見の中には現状の東京の自然に関する課題や都への要望もありましたが、ここでは意見募集をした項目（将来像及び取組）に基づいた内容で整理しています。

○詳しくは、各意見の個票を御確認ください。

団体からの主な御意見

生物多様性に関する「2050年東京の将来像」

【基盤サービス】

- 東京を俯瞰した広域的な生態系ネットワークが拡大している
- 市街地における庭などの小さな生態系についても保全されている
- 新たに自然保護区が設定され、自然環境が保全されている

【供給サービス】

- 地域特性を活かした農林水産業が進み、地産地消と自然資源の循環利用が軌道に乗っている
- 外来種を駆除し、バイオマスや食用などに活用されている
- 認証材や緑地認証制度が普及し、生物多様性に配慮した製品やサービスが拡大している

【調整サービス】

- 生物多様性に配慮した緑づくりやグリーンインフラの導入が定着している
- 事業者が有する緑地において、グリーンインフラとしての効果が発揮されている

【文化的サービス】

- 保全活動につながるアクティビティで楽しみ自然と触れ合っている
- 事業者により、自然を基盤にした様々なイノベーションが創造されている
- 事業者が有する緑地が一般に開放されている
- 中間支援組織による人材育成プログラムが各地で開催、地形のつながりの中で交流が活発化している

【その他】

- 行政組織に自然環境に関する専門職が配置、生物多様性に関するセンター機能が充実している
- 生物多様性を自分事として捉え、生きものに配慮した生活が実現している
- 教育プログラムの中に生物多様性が組み込まれている
- 都内の各大学で生物多様性に関する大学ごとの戦略が作成されている

団体からの主な御意見

「2050年東京の将来像」の実現に向けて進める取組（基本戦略1）

【行政】

- 自然環境情報を収集・蓄積し、情報のプラットフォームを構築する
- 生物多様性ホットスポットを保全する生物多様性オフセット制度を構築する
- 都内で、30by30のポスト2020目標に貢献するOECMを推進する
- 水田や用水路をビオトープと位置づけ、セットで保全する
- 基礎自治体の枠を超えた広域的な課題に対する取組を進める

【都民】

- 自宅の庭などに、生きものを呼ぶ在来種による花壇を設置する
- 地域の自然を守りはぐくむ活動に参加する

【事業者】

- 各主体と連携して企業緑地で生物多様性の向上を図るほか、OECM認定の取得に取り組む
- 企業緑地における在来種や外来種をモニタリング、都市の生態系回復のノウハウを蓄積する
- 建設業においてグリーンインフラを積極的に導入する

【民間団体】

- 多様な主体が集まる生物多様性向上官民連携プラットフォームを構築する
- 生物多様性の保全事業を多様な主体と協働しやすい場づくりを進める
- 市民参加型の生物多様性に関する基礎調査を実施する。
- 希少種外来種対策を進め、生物多様性地域戦略に貢献する
- 都内で保全活動を実施する団体等とユースとの協働イベントを開催する

【教育・研究機関】

- 大学内の敷地を活用して生態系に配慮した自然空間を創出する
- 大学における生物多様性戦略を作成する

団体からの主な御意見

「2050年東京の将来像」の実現に向けて進める取組（基本戦略2）

【行政】

- 地域資源を都内全域で循環させる東京都版地域循環共生圏を官民で推進する
- 各地域の自然資源が都内で循環する施策を推進する

【都民】

- 里山の活動に参画し、発生材を自宅の薪ストーブに活用する
- マイクロエコツーリズムやアウトドアライフを楽しむ

【事業者】

- 事業所敷地内に、雨水浸透などグリーンインフラとして機能する緑地を創出する
- 企業緑地を開放し、自然に触れる機会を創出する
- 緑地や水辺が持つ価値を引き出すための評価システムを構築し、適切に評価・認証する

【民間団体】

- 緑地の地権者と緑地を活用したい都民をマッチングすることで緑地の活用を図る
- 都市、田園、森林をつなぐ新しいエコツーリズムを実施する
- 放棄谷戸田を復活耕作することで、水田を生息・生育の場として保全する
- 都心に残る緑地を保全・活用することで、雨水浸透機能の向上やコミュニティの活性化を図る
- ムササビの存在を活かした観察会や環境学習の機会を作る
- 親子で自然体験ができる「森のようちえん事業」を地域住民とともに拡充する
- 玉川上水の歴史を学ぶ勉強会を実施する

【教育・研究機関】

- 薪ストーブを学校に導入し、地域の発生材を薪として活用する
- 大学などの教育施設に設置されたビオトープを地域住民に開放する

団体からの主な御意見

「2050年東京の将来像」の実現に向けて進める取組（基本戦略3）

【行政】

- 東京のエコロジカルフットプリントについて正しく普及啓発する
- 自然史博物館を設置し、都内の生物多様性に関する情報の収集・整理、普及啓発・情報発信を行う
- 都民及び生活圏内の昼間都民等に、消費行動や保全活動の担い手として啓発する
- 地域の博物館や郷土資料館、環境省のこどもエコクラブなど連携した普及啓発を行う

【都民】

- 環境保全団体やボランティア団体などに寄附や遺贈をする。
- 旅先や都外での仕事を行う際にも、生物多様性に配慮して行動する。

【事業者】

- 企業緑地を活用し、生物多様性、地球温暖化、資源循環などの環境教育（ESD）を推進する
- NPO等と連携し、地域の小学生等を対象とした自然体験活動を推進する
- FSCやMSCなど生物多様性に配慮した環境認証商品の利用を積極的に進める
- NPOや行政に寄付活動を行うほか、余った食品をフードバンク等に提供する
- サプライチェーンにおいて生物多様性への影響を回避・最小化する

【民間団体】

- ワンヘルスアプローチを広く普及啓発することで、都民の生物多様性の機運を高め、実践を促進する
- 環境的な希少性の高い農業用水の担い手を育成する
- 生物多様性の意識の醸成を図るため、身近な物事と生物多様性を絡めたイベントを開催する
- 国際的な生物多様性保全の共同調査や国際的なイベントと連携した普及啓発を行う
- 身近な生きもの大切さから、地球規模の生物多様性保全の意義について訴える
- 大学生のインターンを積極的に受入を行い、人材育成に貢献する

【教育・研究機関】

- 都内の幼稚園・保育園等で自然体験の機会がつけられ、小中学校で生物多様性の学習体験が行われる

都民からの主な御意見

生物多様性に関する「2050年東京の将来像」

【基盤サービス】

- 自然環境調査やモニタリングが充実し、絶滅危惧種や希少種が保全・回復している
- 外来種が適切に防除され、外来種が大幅に減っている
- シカなどの被害が軽減し、野生鳥獣と共生している
- 様々な生態系（里山、崖線、水辺、沿岸部、雑木林、巨樹、農地など）の保全が進んでいる
- 自然との共存を目指した開発時における配慮がなされている
- 外来系統との交雑がなくなり、遺伝子レベルの生物多様性の保全が進んでいる

【供給サービス】

- 東京産の食材が手軽に食べられ、環境認証商品の販売が一般的になっている
- 経済と自然環境が両立し、持続可能な循環社会が成立している
- 都民一人ひとりが極力環境に負荷を与えない生活をしている

【文化的サービス】

- 自然と調和した安らげる・癒やしのある都市
- 身近に緑豊かな公園や緑地、水辺、農地があり自然体験の場が充実している
- 島しょを含む東京の自然を背景とした文伝統文化が継承されている

【調整サービス】

- 自然を活用した快適な都市環境
- ヒートアイランド現象の緩和として緑地の創出、洪水対策として雨水浸透ますの設置が進んでいる
- 気候変動対策と生物多様性保全の両立

【その他】

- 自然史博物館などの拠点が整備され、生物多様性の普及啓発や環境教育などが充実している
- 日々の生活や経済活動などに生物多様性の視点が取り込まれている 等

「2050年東京の将来像」の実現に向けて進める取組（基本戦略1）

生物多様性の保全と回復を進め、東京の豊かな自然を後世につなぐ

【自然環境の保全と回復】

- 身近な生物の写真を撮影し、生物データベースに情報をアップロードする
- 地域における自然環境保全に関するボランティア活動に参加する
- 行政やNPO団体などが行う生物多様性に関連するイベントに参加する
- 自宅の庭で植栽を行い、エコロジカルネットワークの構築に貢献する
- 自宅の庭で在来の鳥が立ち寄れるような環境をつくる

【野生鳥獣の保護管理と希少種・外来種対策】

- 市・区で行う侵略的外来種防除のボランティア活動に参加する
- 自宅の庭に外来種や園芸種ではない在来種を選択して植える
- 希少植物の保護に関するボランティア活動に参加する
- 希少種・外来種対策の現場に携わっている人のネットワークづくりを進める

都民からの主な御意見

「2050年東京の将来像」の実現に向けて進める取組（基本戦略2）

生物多様性の恵みを持続的に利用し、自然の機能を都民生活の向上にいかす

【東京産の恵みの利用（供給サービス）】

- 多摩産材や近隣で採れた農産物などを購入し、地産地消を実践する
- 自宅の庭や市民農園で自ら野菜を作って家庭で消費する
- 種から育て収穫に至るプロセスを経験することで、普段、体に取り込んでいる食糧を生産している都市農業への理解を深める

【防災・減災等につながる自然の機能の活用（調整サービス）】

- 自宅で雨水浸透ますの設置をするなど雨水浸透に貢献する
- ツル系の野菜を育てることで緑のカーテンを作り、夏にエアコンを使用しない
- 自分の暮らす自然環境を知り、防災、減災につながる方策を学習をする

【快適で楽しい生活につながる自然の利用（文化的サービス）】

- 木登りやツリークライミングなど自然を使った遊び場の環境づくりを応援する
 - 島しょでのエコツーリズムの考えに基づくエコツアーに参加する
 - 伝統的な技術に基づく竹細工作りなど自然からの文化を次世代に継承する
 - 自然の中で過ごしたり体を動かしたりすることで心身をリフレッシュする
 - コロナ禍において、近場の都内の自然を享受し、精神的な充足を得る
- 等

「2050年東京の将来像」の実現に向けて進める取組（基本戦略3）

生物多様性の価値を認識し都内だけでなく地球規模の課題にも対応した行動にかえる

【生物多様性に関する普及啓発】

- 日常生活やインターネットを通じて、生物多様性の価値を発信する
- 家族、知人に東京の生態系や生物多様性について知ってもらう
- 行政の計画策定に意見を出すとともに募金や寄付などで民間団体へ支援を行う
- 東京の生物多様性の取組や生物多様性の価値を海外へ発信する

【人材育成と環境教育の促進】

- 子どもが身近に自然に触れられる環境づくりをする
- 子供と一緒に自然のある地域や環境学習が可能な施設に行って、子供への環境教育に実践する
- 行政やNPO団体などが行う環境学習講座を受講する

【都内だけでなく地球環境に配慮・貢献する行動変容】

- 量り売りや持参容器による買い物で、使い捨て資源を削減する
- 牛肉を食べることを控え、大豆等の植物性たんぱく質の摂取を心がける
- 車は所有せず、主に自転車や公共交通機関による移動を心がけ、必要な時はシェアカーを利用する
- 認証ラベルのある自然にやさしい商品をなるべく購入する 等